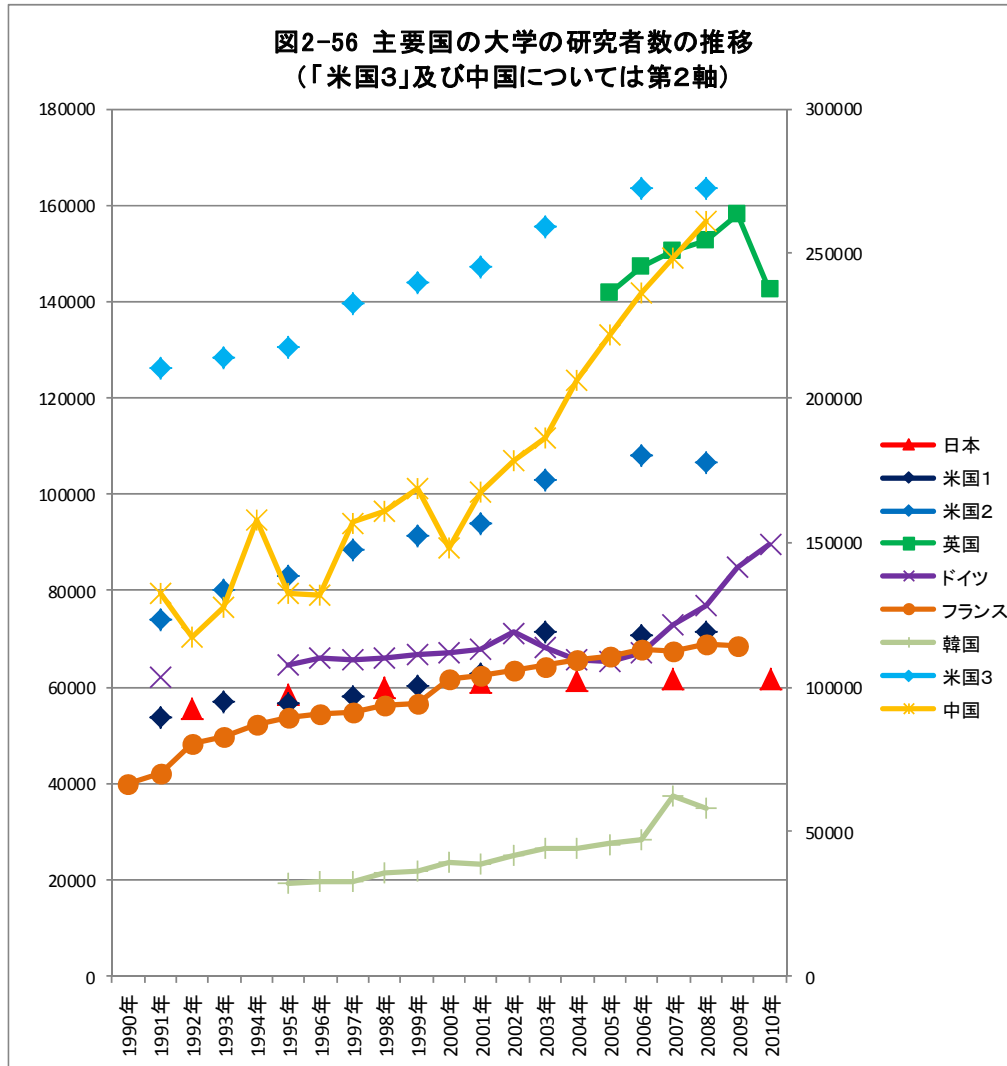


③ 主要国との比較

大学の研究者数と研究費について主要国と比較するために図 2-56～59 を掲げる。各国の指標については上下の変動が激しいものもあり、また研究費については物価や為替レートの変動も考慮する必要があるが、各国とも研究者数と研究費の双方を増加させてきている(注)。

注) OECD が定めた各国の科学技術指標の基準である「フラスカティ・マニュアル」(“Frascati Manual”, OECD, 2002) は、しばしば人件費が研究費の最も大きな部分を占めるものであることを述べている。



(出典) 日本：文部科学省「学校教員統計調査」に基づき内閣府作成

米国：National Science Foundation “Science and Engineering Indicators 2012”

英国、ドイツ、フランス：“Eurostat”

中国、韓国：OECD “R&D database, March 2011”

(注) 日本は国立大学の教員数（全分野）のみを記載

米国1：研究が優先職務のフルタイム教員

米国2：研究が優先職務のすべての教員

米国3：研究に関する職務に従事するすべての教員

英国の2010年値は暫定値、その他の年の値は推定値

ドイツの2010年値は推定値